

主な医療従事者の勤務環境改善の取組

- ◆ 院内保育所の設置(月極・一時・病児保育)
- ◆ 医師事務作業補助者の配置による病院勤務医の事務作業負担軽減
- ◆ 病院勤務医の時間外・休日・深夜の対応についての負担軽減及び処遇の改善
- ◆ 看護補助者の配置による看護職員の負担軽減

聖マリアンナ医科大学病院における負担軽減計画(30年度版)

病院勤務医の負担軽減・処遇改善に対する具体的な取り組み項目	具体的内容
読影結果の入力補助	画像センターに事務を配置し、医師が録音した読影結果をトランスクリバークがレポートとして代行入力する。
読影の補助	消化管造影検査時、テクニカルレポートの見直し
病棟クラークの配置	病棟クラークを配置し、病棟における様々な事務的な雑務を実施させる。
急患トリアージナースの配置	救命救急センターに専門のナースを配置し、重症度を判断し、一次振り分け、医師への依頼要請を行っている。
医師事務作業補助者の配置拡大	診療科に医師事務作業補助者メディカルコーディネータを配置し、医師の指示のもとに文書作成補助、データ加工等を行う。また、症状説明、手術説明等に参加し医師の負担軽減を図るとともに患者満足度の向上に努める。
手術室への事務員の配置	手術部業務の効率化のため、手術記録の入力支援等を行い、記入漏れのないよう煩雑な事務作業を補助する。
当直体制の見直し	当直明けを休みにするなど業務の軽減に配慮し、随時当直体制を確認し適正な指導を行う。
外来予約センターの業務拡充	診療予約日の変更だけでなく、医師が判断しなくとも適切に検査日の変更等できるように業務内容の見直しと拡充をはかる。
持ち込み画像情報の取り込み、照会先へのCD作成部門の設立	医師がスムーズに画像データを読影できるように持ち込み画像データのPACSへの取り込み、紹介先へのCD作成業務等専門で行う部門を設置する。
検査説明専門窓口の設置と見直し	検査の説明等を専門的に扱う窓口を設置し、事務的業務を軽減する。造影剤使用の検査等にも拡充したい。
看護師による静脈注射実施	厚生省の提示した方針に則り、看護学会が取りまとめたガイドラインに合わせ付属病院も含めた対策に従って実施する。
検査技師による病棟採血	早朝から病棟に赴き、看護師に代わって、入院患者の採血業務を行う。
メッセージ業務の拡大	院内の物品の搬送・補充、検体の検査室等への移送業務を拡大し、平成20年5月7日より、平日の日中だけであった院内の物品運搬システムを、夜間帯や休日についても実施している。
現行制度下で、薬剤師を積極的に活用する	医師の指示による代行入力など薬物治療に関わる範囲に積極的な支援を行う。
入退院業務のサポート体制の強化	ベッドコントロール担当ナース及びソーシャルワーカーを配置し、退院促進に向けた働きかけを早期に実施する。
外来初診時特定療養費の検討	初診時特定療養費の金額増額の検討
栄養管理士による一般食の入力	医師の指示のもと、栄養管理士により一般食の入力補助を実施
術前経口補水の導入	定時症例の術前経口補水への導入
食物アレルギーへの対応	入院栄養窓口における予約入院患者のアレルギー対応患者基本の活用によるアレルギー情報の取得と入力

看護師負担軽減・処遇改善に対する具体的な取り組み項目	具体的内容
メッセージ業務の拡大	院内の物品の搬送・補充、検体の検査室等への移送業務を拡大し、平成20年5月7日より、平日の日中だけであった院内の物品運搬システムを、夜間帯や休日についても実施している。
病棟で看護師が実施している薬剤関連業務の委譲できる業務の検討	病棟の薬剤に関連する業務について薬剤師へ移行できる業務について、リニューアルに向け検討する。
病棟薬剤師の配置	病棟薬剤師を配置しと薬等の準備を含む薬剤管理業務および抗がん剤の投与に対する積極的な支援を行う。
臨床工学技士の積極的な活用	医療安全の確保のためにも、医療機器の管理を中央化し、病棟や手術室等への臨床工学技士の積極的な介入による機器のメンテナンスや点検作業を重点的に実施する。
看護補助者の配置	看護補助者を積極的に配置し、本来の看護業務が十分発揮できるような環境を整備する。
病棟クラークの配置	病棟クラークを配置し、病棟における様々な事務的な雑務を実施させる。
救命受付での紹介状のスキャン業務の対応	救命受付を経由する入院患者の紹介状スキャンを実施することによって、看護師・医師がすぐにカルテを確認できる。また、書類の紛失を防ぐ。
ベッドメイキング・ベッド清掃作業者の整備	ベッドメイキング・ベッド清掃担当者を整備し、業務の効率化に貢献させる。
コスト記録の入力補助者の配置	手術部業務の効率化のため、医事課保険請求経験者を手術室に配置し、コスト記録等の入力業務の支援等をおこなない、記入漏れのないよう煩雑な事務作業を補助する。
調乳業務を扱う栄養士の配置	新生児病棟に栄養士を配置し、調乳業務を実施する。
経腸栄養剤用容器の変更	経腸栄養剤専用のデイスホザルバッグの導入
栄養管理体制の整備	入退院フロント横に「入院栄養窓口」を新設、管理栄養士を配置し、入院時の栄養スクリーニングを実施する。
糖尿病患者の教育入院バス	糖尿病患者の教育入院バスの情報の共有化
予約入院患者のアレルギーの対応	入院栄養窓口における予約入院患者のアレルギー対応
アレルギー情報取得のルーチン化	患者基本の活用によるアレルギー情報の取得
アレルギー食の対応(誤配膳リスクの低減)	アレルギー患者の配膳トレーをアレルギー食専用トレーに、固定化する
嚥下食の見直し(誤嚥リスクの低減)	現在使用している咀嚼・嚥下障害対応の嚥下食の見直し
教育入院患者等への栄養指導の実施	教育入院患者等に対し、対象者抽出、医師へのオーダー依頼、予約取得、栄養指導の実施、を自動的に行う。
術前外来にて、患者情報、アレルギー情報取得	術前外来にて、入院前に患者情報(身長、体重、栄養スクリーニング項目)、アレルギー情報を取得

病院勤務医の負担軽減・処遇改善に対する具体的な取り組み項目	具体的内容
低栄養状態の患者の早期抽出	栄養管理において、低栄養状態の患者を早期抽出し、対応策を提案
嚥下食の見直し(誤嚥リスクの低減)	現在使用している咀嚼・嚥下障害対応の嚥下食の見直し
教育入院患者等への栄養指導の実施	教育入院患者等に対し、対象者抽出、医師へのオーダー依頼、予約取得、栄養指導の実施、を自動的に行う。
術前外来にて、患者情報、アレルギー情報取得	術前外来にて、入院前に患者情報(身長、体重、栄養スクリーニング項目)、アレルギー情報を取得
放射線被ばくの説明と相談	医療被ばく事例報告書を作成、医療被ばくパンフレットの改定
検査の説明と相談	患者様よりの予約検査に対する問い合わせに対応し、より良い説明環境の構築を行う
助産師外来の運用開始	助産師外来を設置する
リハビリテーション診療補助	各学会認定資格保持者の育成 リハビリ診療レセプト入力補助
医師事務作業補助者の配置拡大	診療科に医師事務作業補助者メディカルコーディネータを配置し、医師の指示のもとに文書作成補助、データ加工等を行う。また、症状説明、手術説明等に参加し医師の負担軽減を図るとともに患者満足度の向上に努める。
臨床工学技士の当直	臨床工学技士の当直開始
夜間緊急内視鏡施行時のサポート	夜間内視鏡施行時のサポート継続
特定看護師(診療看護師)の導入	・特定看護師(診療看護師)卒業研修の実施
医師の労働時間短縮に向けた取組	タスク・シフティング(業務の移管)の推進:尿道カテーテル留置(患者の性別を問わない)のシステムの再構築及びフロアー内協力体制の整備
業務のIT化促進	29年度後半から事務処理のIT化を促進している。 グーグルドライブを活用。
医師の短時間勤務制度の導入	女性医師の働きやすい環境を目指して、短時間勤務制度の導入を行う。
院内保育園の設置	院内保育園の定員拡充に伴う利用可能な職種を拡大
後期研修医の採用促進	後期研修医(任期付助教、大学院生)の採用・募集を促進。
交代勤務	救命救急センターにおいて交代勤務を実施
福利厚生の一層の充実	ワークライフバランスの促進。 病院に設置されている教職員交流促進委員会により、各種イベントを企画・実行

看護師負担軽減・処遇改善に対する具体的な取り組み項目	具体的内容
検査技師による病棟採血	病棟に検査技師を配置し採血業務を支援する。
病棟内リハビリの実施件数増加	病棟にPTを派遣し、病棟内リハビリの実施件数増加を図る。
検査の説明と相談	厚生労働省の示すチーム医療普及推進事業、診療放射線技師の業務範囲の拡大に即して、説明範囲を拡大
患者情報の入力補助	入退院フロントにおいて、入院患者情報の一部を看護師に代わって電子カルテへ入力
看護記録の業務の効率化を図る取組	①入退院支援の推進より入院前より関り、入院時の書類作成の効率化を目指す。 ②スキャン業務の効率化(スキャンセンターへの依頼・QRコードの取得) ③診療報酬改定に伴う看護必要度の記載についての検討 ④音声入力(アミボイス)のトライアルによる看護記録の業務効率化
業務のIT化促進	29年度後半から事務処理のIT化を促進している。 グーグルドライブを活用。
院内保育園の設置	院内保育園の建設計画を具体化。
福利厚生の一層の充実	ワークライフバランスの促進。 病院に設置されている教職員交流促進委員会により、各種イベントを企画・実行
看護師、看護助手の処遇改善	働きやすい環境を目指して、短時間勤務制度の維持・手当の見直しを行う。